

# 清水尚彦の CeBIT レポート

HANNOVER 13 - 20 - 3. 2002

清水尚彦  
nshimizu@kayaki.cc.u-tokai.ac.jp

3月の中旬、イギリスのヨークシャー・ハンパー地域とドイツのハノーバーで毎年開かれる国際見本市「CeBIT 2002」(記事末のResources [1]参照)に行ってきました。今年の日本は暖かく桜も早く咲くとの情報がありましたが、イギリスとドイツはまだまだ寒く、コートを着た防寒体制で出かけて行きました。ハノーバーではホテルは取れず、ブレーメンからの専用列車もしくはICE (InterCityExpress。ドイツの新幹線といったもの)による移動になりました(写真1)。いろいろなどころで最新のレポートが報道されていると思いますが、私なりのレポートをしてみたいと思います(写真2)。

今年のCeBITでは、VoIPや無線LANなど通信分野の展示が目立っていました。これらが駅に近い会場に展示されていて、ソフト関係は対角線上の一番遠い区域に展示されていたので、余計そのように感じたのかも知れません(Linuxの展示が多い3番館はここから遠く、行くまでに疲れ果ててしまい、じっくり回ることが難しくなります)。

出展社や来訪者のLinux自体への興味は、すでにビジネスの領域に入っており、CeBITでも取り上げている会社は多々ありました。exchangeworld.net([2])という情報交換のた

めのポータルサイトがガイドブックとブース([3])を出して、Linuxに興味のある人々の利便を図っていました。

CeBITの会場は広く、2日間の滞在では全部は回りきれませんので、興味のある分野にだけ集中して回ってきました。会場を回り始める前にLinux Exchangeのブースを見つけてガイドブックをもらってれば、もっと効率よく回れたのですが、こういう事情でかなり偏ったレポートであることをお断りしておきます(写真3、写真4)。

また、Linux Exchangeは、CeBITにおいてLinuxConferenceを実施していました([3] 3月18日13時~17時)。残念ながら、今回は日程が合わず私は出席できませんでしたが、発表者と発表タイトルは表1の通りとなっていました。

イベント全体の感想として、組み込み関係ではLinuxは当然のように使われ始めています。特に、セフトップボックスやインターネットアプライアンスではLinuxが主流となっています。その上、最近ではCompactPCIなどを利用した大型の組み込み制御コンピュータもLinuxで動作させることが多くなっています。ただし、会場で話を聞いた限りでは、組み込みのOSについては顧客の要求次第でいろいろ変わるそう

で、必ずしもLinuxを採用するわけではないとのことでした。

また、SAPがLinuxで動作するmySAPの評價版を積極的に配布していたり、SuSE Linuxが派手なデモをしていたりと、ビジネス分野でも大きな流れになっていることは間違いありません(写真5)。

## PDA

PalmコンパチブルなPDAが台湾や中国、香港の会社から数多く出展されていて、それらのリリースにはPenbex OS([4])の他にLinux

【写真3】



【表1】

• Jon "maddog" Hall, Linux International 「Greeting and Agenda」
• Dr. Uwe Kuester, Social Democrat member of the German Bundestag 「Will the German Bundestag be Switching to Linux?」
• Ryan Hughes, Neuberger&Hughes GmbH 「Linux as a Workgroup and Messaging Server Platform」
• Greg Olson, Sendmail, Inc. 「Linux: Not just for hackers anymore」
• David Leichner, Magic Software Enterprises 「Integrating Linux with Legacy Systems for Rapid Return on Investment」
• John Lima, Cyclades GmbH 「Console Management: out-of-band management for Server Farms」
• Dr. Michael Meskes, creativ GmbH 「Naturally Open Source: Examples of Debian/GNU Linux and PostgreSQL in the Business Environment」
• Mr. Ralph Schwoebel, Intradat.com 「Linux as a B2B and B2C Enterprise Platform」
• Rafael Bujotzek 「Advantages of Linux」

【写真1】



【写真2】



【写真4】



【写真5】



搭載といった記述が見受けられます(写真6)。しかし、これらより面白いデバイスとして次に挙げるようなものを見つけました。

### Tiqit EightyThree

親指で押すキーボードを持つ、PC互換のPDAです(表2、写真7、[5])。CPUはNational SemiconductorのGeodeを採用し、VGAサイズの液晶ディスプレイと10Gbytesハードディスク、128Mbytes ~ 256Mbytesのメモリを搭載しています。リチウムイオン充電電池使用で4時間以上動作可能となっており、重量は約567g。

【写真6】



【写真8A】



【写真9A】

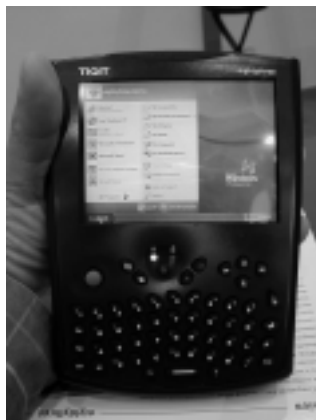


PC互換ですから当然LinuxもWindowsも問題なく動作すると説明していました。写真7で見て分かるように、カバンに放り込んだりするとキーが引っかかりそうで、この辺りはHP 200LXのように2つ折りにしてもらいたかったところです。でも、この大きさと重量なら持ち歩く気持ちになれますし、しかもアプリケーション不足に悩む必要がないというのは選択肢として大きなものだと思います。

### YOPY

韓国製のStrongARM搭載PDAです(表3、写

【写真7】



【写真8B】



【写真9B】



【写真9C】



真8A、[6][7]。日本でも紹介されたことがあるかと思いますが、CDMAユニットをオプションとして出ている、北米や韓国ではHandspringのTreo(写真8B、[8])のような使い方ができそうです。ボタン式キーボードが付いている2つ折りのデザインは、まるで日本の携帯電話のようです。X Window Systemを利用していますが、CPUが強力なので使用感にストレスは感じないそうです。

### Linpus ECniw

「百寶Linux」のディストリビュータ、台湾のLinpus Technologies([9])が独自GUIを持つOSを展示していました。このOSはECniw(写真9A~写真9C、[10])という名前で、デモCD-ROMを配布していましたので、1枚もらってきました。とにかくXやGTK+を使わないから軽いんだと強調していました。日本語版も開発予定に入っているらしく、積極的に展開するつもりようです。ターゲットCPUは、ARMやMIPSなど主要なCPUを網羅しており、SDKも

【表2】Tiqit EightyThree スペック (抜粋)

対応 OS	Linux、Windows XP / XP Embedded / 2000
CPU	National Semiconductor Geode (266 ~ 300MHz)
メモリ	128Mbytesまたは256Mbytes
ディスプレイ	4インチカラー TFT 液晶 (640 x 480 ピクセル、18ビットカラー、タッチスクリーン、バックライト)
ハードディスク	10Gbytes
インターフェイス	Cardbus、SD カードスロット、USB、IrDA など
キーボード	56 キー SMS キーボード
内蔵バッテリー	リチウムイオン充電電池
バッテリー駆動時間	4 時間以上
サイズ/重量	137mm x 102mm x 29mm / 約 567g (バッテリー含む)

【表3】YOPY スペック (抜粋)

対応 OS	Linux、X Window System
CPU	Strong ARM (206MHz)
メモリ	64Mbytes RAM / 16Mbytes ROM
ディスプレイ	3.5インチカラー TFT 液晶 (240 x 320 ピクセル、6万5000色)
インターフェイス	MMC 拡張スロット、USB、IrDA など
キーボード	40 キー
内蔵バッテリー	リチウムイオン充電電池
バッテリー駆動時間	4 時間以上
サイズ/重量	102mm x 68.6mm x 15.2mm / 約 141.7g

揃えているという力の入れようです。GUIとアプリケーション込みで600Kbytesほどのサイズ。8Mbytesのメモリがあれば十分動くということなので、私の眠っているAgendaVR3にもちょうどよさそうです。ただ、多国語に展開するとは言っていますが、デモバージョンには英語版と中国語版しかありませんでした。特に、多くの機能が中国向けにアレンジされているため、日本ではなかなか使いにくいと感じましたが、彼らが日本向けに開発してくれば軽いGUIで動作するPDAとして面白い一品です。

## シンククライアント

Linuxだけですべて済むのであればいいのですが、やはりまだまだWindowsと併用する必要があります。そういった用途に対して有効な手段としてシンククライアントがあります。何度も現れては今一つメジャーになりきれずにいるシンククライアントですが、今回のCeBITでかなり実用性が固まってきたと感じました。

以前は、LinuxからWindowsサーバに接続するためにはCITRIXのMetaFrameが必要となっていたのが難点でした。今回は、Remote Desktop Protocolを採用したシンククライアントが出回り始めたことにより、Windowsサーバだけ用意することでシンククライアント環境ができるようになってきたため、実用的に使えるようになってきています。

### Lin:ware

ドイツのSojusIT GmbHは、

【写真10】



【写真11】



- ・「lin:thin 1.5」(シンククライアントマシン)
- ・「lin:ware」(PC用シンククライアントソフト)

を出品していました([11])。lin:wareのデモディスクをもらってきましたが、このデモはインストールするとハードディスクのパーティションを切り直してフォーマットするというもので、うっかり試すと大変です。使用していないPCを用意して試してみました。CeBITの会場ではかなりスムーズに動いていたのですが、私の環境ではデモが立ち上がる前にlogin画面になってしまい、ユーザー名もパスワードも分からないのでデモができません。そこで、シングルユーザーで立ち上げてディレクトリを眺めてみると

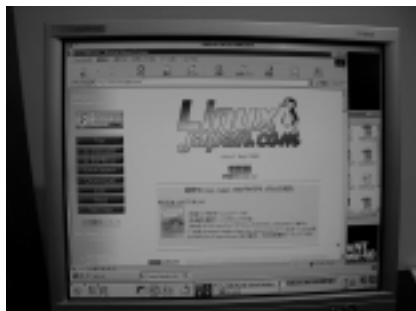
- ・Mandrakeのパッケージに付加ソフトを追加して構成
- ・MetaFrame用ICAのクライアントとRDPのクライアントは別々のディレクトリに入っており、RDPはrdesktopという名前となっている。
- ・ホスト系のターミナルエミュレータも各種用意

ということが分かりました。rdesktop(写真10)について検索すると、[12]のサイトが見つかりました。RDPプロトコルのベースとなった規格から有志による解析によってクライアントが作成されています。1.10版ではキーマップのバッチは入ってませんが、オプション「-k 411」を追加すれば101キーでは日本語で利用可能です。ソースをダウンロードしてコンパイルするとそれなりに動作するようです。ただし、キーマップとピットマップ表示が一部おかしいので、まだ修正が必要になります。lin:thinではもう少しまともに表示していたと思うので、彼らは何か手を加えているのかもしれませんが、また、キーマップに関しても彼らはドイツ語キーボードのマップを作成していて、日本語にも簡単に対応できると言っていました。説明書がまだドイツ語しかなく、英語版は作成中とのことでした。

### HOB electronic GmbH & Co. KG

HOB([13])はJavaを用いたRDPクライア

【写真12】



ント(JWT)を作成していますが、LinuxのJavaは速度の問題があったので、ネイティブのクライアントを作成したとのこと。彼らのソフトで日本語のサーバに接続できるのか試してみたいと申し出たところ、彼らも非常に乗り気でやってみようということになりました。

ただ、この時はデモマシンの管理者がどこかに出かけているとのことで、しばらく経ってから再度訪れて試そうとしました。しかし結局、「デモマシンをセットアップした人が、スクリプトでデモ用サーバに自動接続するように設定しているから、他のサーバに接続するにはできない」との返事。彼らに「ちょっとマシンを貸してくれ」と言って確かめると、デモ用に用意したコマンドはシェルスクリプトで、その中にデモサーバの名前が入っています。そこで、ローカルにスクリプトのコピーを作り、サーバ接続先を私の研究室のマシンに書き換えて試すと、ちゃんと日本語も動作します(写真11、写真12)。キーボードのマッピングには多少問題がありましたが、彼らは解決は簡単だと言っていました。

64Kbpsの回線接続のため画面の表示には時間がかかりますが、これはLAN環境であれば問題ないでしょう。

## Singular Technology

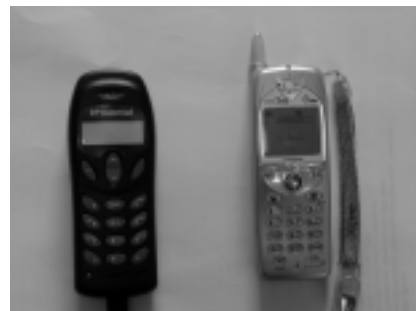
台湾のSingular Technology([14])が、Windows95 / 98 / 2000にも接続できる「SD205 Thin Client」([15])というマシンを展示していました。残念ながらテストはできなかったのと、詳細な技術資料がなかったののでメールで送ってもらうという約束をして帰ってきましたが、どのようなものなのか興味があります。

## 番外編

### Vicp

VoIPが大きな流れになってきています。主なターゲットは企業ユーザーですが、個人向けとして面白いデバイスを見つけました。IPmental([16])の「TAICHI-III」という電話機型のUSBデバイスです。このメーカーは普

【写真13】



通の電話機を接続するUSBアダプタも作っていますが、それよりも写真の電話機の方が面白いのです(写真13)。

最大の特長的な、IPmentalが独自の電話番号をこれら端末に付加して、その電話番号で直接コールできるVicqというサービスを提供していることです。NATやファイアウォールに対応して、プライベートIPでもこの電話番号で接続できるそうです。

CeBITの会場とオーストラリアを結んでデモをしていましたが、私も1台買って帰って自宅のPHS回線から台湾のサポートセンターに電話してみました。注意点は、IPmentalのデバイスドライバよりも先に、Windowsに最初から入っているドライバがインストールされてしまうと動作しないことです。そのため、Vicqのセットアップ前にハンドセットを接続しないという注意さえ守れば簡単に用意が整います。使い方は電話と同じで、インターネットに接続していればハンドセットから(独自の)電話番号を入力してコールボタンを押すだけです。PHSの64Kbpsの回線スピードがあれば、普通の電話と変わらないクリアな音質で気持ちよく使えました。AirH"と組み合わせて動かさうかやってみました。さすがにパケット遅延が大き過ぎて音になりませんでした。バッファ容量、遅延などを調整すれば、音声の遅延はあってもなんとか聞こえるようになるのではないかと思います。現状のソフトには調整する部分がないので、今後のバージョンアップに期待というところですね(といっても、彼らはこんなに遅延の大きなパケット通信網を知らないで、対応し

てくれるかどうか分かりませんが)、AirH"でもYahoo Chatで自分の声のエコーはきちんと入ったので、Yahoo Chatでは最低限ハンドセットが使えることは確認しました。

現在用意されているソフトはWindowsでしか動かないのですが、彼らのゲートウェイの新しいマシンは組み込みOSとしてLinuxを利用して開発しているそうで、VicqのLinux版についてもぜひ開発したいと積極的でした。ちなみに、対応してくれた人は早稲田大学に留学経験があり、日本語で話が通じました。

### i-mode

NTTドコモがドイツでもi-modeを展開するというニュースを聞いた人も多いのではないのでしょうか。CeBITの会場にNTTドコモも出展しており、実際にサービスを行うE-Plus([17][18])というドイツ企業も、NTTドコモと同様にその場で試せるデモを行っていました(写真14~写真18)。

### プレゼント

ただただ広いCeBITの会場で会話はほとんど英語なのですが、場合によってはドイツ語の資料しかないところもあって多少疲れ気味のところに、IPmentalと日本からブースを出していたサイバネテックでは日本語での雑談にお付き合いいただいた上に飲み物までご馳走になりました。

CeBITを2日間で回ろうというのはかなり無謀な計画だったようです。話を聞きたいブース

はたくさんあったし、まだまだ調べたいこともありましたが、日程の都合もありあきらめざるを得ませんでした。

最後に、今回入手した3枚のLinux関係CD-ROM、

- ・「lin:ware」評価版
- ・「Linpus ECniw DemoCD」
- ・「mySAP Technology TestDrive」

を読者のみなさんへのプレゼントとしたいと思います。

### ヨーロッパで使う携帯電話

日本で主流の携帯電話(PDC)は、国内専用仕様のため海外に出かける時には使えないのですが、多くの国ではGSMという規格の携帯を利用しています。今回の出張では3月末という時期でもあり、日本との何らかの連絡手段を用意しておこうとGSM携帯電話を試してみることになりました。

GSMはローミングによる利便性を追求しており、電話をそのまま他の国で利用できるだけでなく、SMS(ショートメッセージサービス)も通常そのまま受信できるようになっています。ショートメッセージの送信は、各通信会社のローミング契約によってさまざまなものがあり、普通に送信できる契約もあれば特別な手段が必要な場合もありますが、(日本と韓国以外)世界中ほぼどこに行っても自分宛てのショートメッセージを読み出せる点はありがたいです。また、約1週間の出張ですとGSM携帯電話を使っ

【写真14】



【写真15】



【写真16】



【写真17】



【写真18】



【写真19】



【写真20】



【写真21】



ていましたが、その間1通もいわゆる広告メールが入らなかったことも報告しておきます。インターネットからの無差別な送信を許可しておらず、SMSが閉じたシステムであるからだと思いますが、快適な使用感でした。

## 事前準備

GSMの端末ではノキアがトップシェアで日本国内でも手に入りやすいのですが、利用する回線業者が指定している機能が搭載されていなかったため、SMSが使え、3バンド実装し北米を含めて全世界で使える電話でもっとも安かったエリクソンのGSM携帯電話R520mを購入しました(写真19)。

GSMの販売形態は2種類あり、その1つは日本と同じように回線業者の縛りがあるSIMロックというものになっています。もう1つは、回線業者を自由に選べるSIMフリーで、端末そのものの値段は高くなりますが回線業者を自由に選べるためこの形態で購入しました。今回買った端末は安いといっても本体と送料で約3万円と、日本の携帯よりもかなり高い買い物になりました。また機能は豊富ですが、2年前のモデルなので最新モデルよりもかなり大きく、ジャケットの内ポケットに入れる分には不便を感じないかなというサイズです(写真20)。

すでに書いたように、回線業者を自由に選べるというのは、GSM携帯電話では電話本体と

回線業者を別々に選択できるようになっており、現地の回線業者と契約すれば通話料を安く済ませられるのです。今回は日程もそれほど長くはないのと2カ国の訪問ということで、国際ローミングを行っているスイスの業者スイスコムと回線契約を行いました。契約といってもプリペイドなのでSIMカードを購入するだけです(写真21)。

購入したSIMカードは電話の電池の裏に設定するスロットがあり、そこに入れます。

今回の契約では、ローミング中はデータ通信ができないので、残念ながらせっかく買ったR520mの持つBluetoothやIrDAなどの機能、GPRSという高速パケット通信は試すことができません。その代わりに、携帯からのEメールの送信とショートメッセージの送受信をサポートしています。スイスコムの送受信サービスは、SIMツールキットと呼ばれるGSM拡張機能を利用し、しかもSMS送信に対応する電話機がエリクソンかジーマスの製品に限定されるのが難点ですが、プリペイドの有効期限が1年間で比較的長く便利です([19])。

現地でのネットワークは、電話機の設定を自動選択にしていたので、移動ごとにネットワークが切り替わります。マニュアル設定も可能で、調子が悪い場合にはネットワークを切り替えられます(写真22、写真23)。マニュアル切り替えの場合には、写真24のようにアクセス可能なネットワークを検索して選択します。これは

CeBITの会場で撮影しました。画面では出ていませんが、この他にS2というネットワークを検出しています。

日本で行っているレンタルの携帯電話もそうですが、ローミング中は通話料が非常に高価なので、ケチな私は通話主体でなく、あくまでもショートメッセージを中心に連絡するように研究室の学生にも伝えての出発です。どのくらい高価かということ、発信は回線設定代5度数とその後1分あたり20度数、受信は1分あたり10度数となります。日本では1000度数のカードを1万円ほどで販売しているので、発信が1分200円、受信が1分100円となってしまいます。これに対してショートメッ

セージもしくはEメールの送信は2度数、受信は無料でこれで済めばずっと安上がりです。

日本からのショートメッセージは英語がローマ字で[20]に示すWebサイトから送ります。メッセージが到着すると写真25のように到着を知らせてくれます。初めて来たメッセージは回線オープン時に接続したVodafoneからでした(写真26)。

逆に、GSM携帯からショートメッセージを送っても、日本の携帯はローミング契約をしていないため受け取れないので、こちらの携帯からはEメールで送ることになります(ショートメッセージのローミングは世界の多くの国々で行われているのですが、日本だけはその仲間に入っていないのは何とかしてほしいものです)。Eメールからショートメッセージへの転送は、ほとんどの回線業者が許可していません。これは日本の迷惑メールのような事態を起こさせないためだろうと推測していますが、一部の回線業者で行っているゲートウェイサービスでは送信者のアドレスと受信電話番号を事前登録制としているようです。

回線業者は自社の通話を優先しているのが、ロンドンの空港やCeBITの会場ではときどき送信を失敗することがありました。しかし、おおむね利用は簡単で、受信もあつという間に入るので使える文字数が少ないことを除けば便利なツールでした。

一番の不満は、SMSが携帯の機能ではなくSIMに格納されるツールキットを用いて実現されているため、使い勝手が悪く文字数も54文字しか入力できないことです。この文字数は、英語ならともかくローマ字では大変キツイものがあります。空白を空けずに単語の区切りを大文字で示すなど昔のPascalでのプログラミングの変数名みただなんて考えながら打っていました(例:KonnaGuaiDesu)。

帰国直前に確かめたら、SMS中心の利用だったため、頻繁に日本と連絡を取っていたにもかかわらず60度数程度しか利用していませんでした(写真27)。

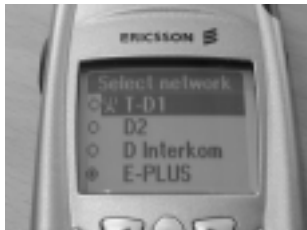
## イギリス携帯事情

イギリスでは携帯電話の契約台数が4300万台に達し、人口約5900万人に対して極めて高い普及率となっています。イギリスには、(オペレータもしくはネットワークと呼ばれる)回線業者が実回線を持っている会社で4社、仮想オペレータという回線借り受けでサービスする会社が4社の計8社の回線業者があり、サービスを競い合っています。契約内容によって違いますが、通話料も日本の携帯電話よりはかなり安く設定されています。手持ちの資料(What

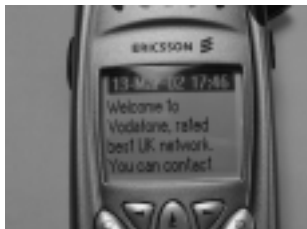
【写真22】



【写真24】



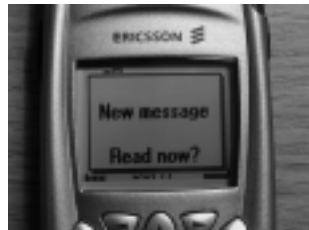
【写真26】



【写真23】



【写真25】



【写真27】



Mobile Vol.10 Issue 2) から面白い料金コースをピックアップしてみましょう(表4、表5)。

電話を使う頻度が多い人は、One2OneのAnytimeMaxなんてコースがベストマッチですね。使い方に合わせたさまざまなコースが各社から提供されています。プリペイドもさまざまな魅力的なコースが展開されています。

実は、今回私はイギリスでデータ通信用のプリペイドのカードを買うつもりでしたが、旅行代理店の手違いでホテルがとんでもない田舎に取られていて、周囲には電話会社どころか何の店もないという場所だったため断念しました。1人で行くときには自由が利きますが、今回は団体での行動となったため機動力に欠けます。

イギリス最後の夜にダウンタウンに出かけ、そこには日本と同じように携帯電話のショップがそこかしこにあったのですが、イギリスを離れる直前にカードを買っても仕方がないので眺めるだけでした。

空港には電話機は結構売っていますが、プリペイドのSIMカードだけの販売はありません(写真28、写真29、写真30)。聞いたら町のショップに行けと言われました。

実はドイツの資料も持って帰ったのですが、表の見方が分からないので、紹介は割愛させていただきます。ただ、分からないながらもイギリスほど料金は安くはないようです。月極め契約で1番通話料が安いコースでも1分あたり7セントで、日本の携帯と大差ないように感じました。

CeBITレポートでの報告通り、ドイツではE-Plusがi-modeを導入して会場でしきりに宣伝していましたが、ショートメッセージのサービスが行き届いている中でどれだけ普及が図れるものか興味深いです。

【写真28】



【表4】月極め契約の料金コース(抜粋)

会社	プラン	基本料金(無料分)	ピーク料金	オフピーク料金
BT Cellnet	Leisure Tim600	15(12)	35p	2p
Carphone	FreshFreedom	0(0)	10p	10p
Orange	Everyday50	15(0.5/day)	35p	1p
One2One	AnytimeMax	75(-)	無料	無料

【表5】プリペイド契約の料金コース(抜粋)

会社	プラン	有効期間	料金
BT Cellnet	Pay&Go Talkalot	6カ月間	1日の内最初の3分は25p後は5p
Virgin Mobile	prepay	無期限	1日の内最初の5分は15p後は5p
GenieMobile	prepay	30日間	peak 30p、offpeak 10p、wapfree

表4、表5の料金の単位はペニーになり、基本料金の単位はポンドとします。

【写真29】



【写真30】



## Resource

- |  |  |
|--|--|
| <p>[ 1 ] CeBIT<br/><a href="http://www.cebit.de/">http://www.cebit.de/</a></p> <p>[ 2 ] exchangeworld.net<br/><a href="http://www.exchangeworld.net/">http://www.exchangeworld.net/</a></p> <p>[ 3 ] Linux Exchange Pavilion<br/><a href="http://www.hfusa.com/cebit/linux.html">http://www.hfusa.com/cebit/linux.html</a></p> <p>[ 4 ] Penbex<br/><a href="http://www.penbex.com/">http://www.penbex.com/</a></p> <p>[ 5 ] Tiqit Computers<br/><a href="http://www.tiqit.com/">http://www.tiqit.com/</a></p> <p>[ 6 ] YOPY 公式サイト<br/><a href="http://www.yopy.com">http://www.yopy.com</a></p> <p>[ 7 ] G.MATE<br/><a href="http://www.gmate.com/english/overview.htm">http://www.gmate.com/english/overview.htm</a></p> <p>[ 8 ] Handspring<br/><a href="http://www.handspring.com/">http://www.handspring.com/</a></p> <p>[ 9 ] Linpus Technologies<br/><a href="http://www.linpus.com.tw/en/">http://www.linpus.com.tw/en/</a></p> <p>[ 10 ] ECniw<br/><a href="http://www.linpus.com.tw/en/internet_appliance.htm">http://www.linpus.com.tw/en/internet_appliance.htm</a></p> | <p>[ 11 ] lin:ware 公式サイト<br/><a href="http://www.linware.de/">http://www.linware.de/</a></p> <p>[ 12 ] rdesktop: A Remote Desktop Protocol Client<br/><a href="http://www.rdesktop.org/">http://www.rdesktop.org/</a></p> <p>[ 13 ] HOB electronic GmbH &amp; Co. KG<br/><a href="http://www.hob.de/">http://www.hob.de/</a></p> <p>[ 14 ] Singular Technology<br/><a href="http://www.singular.com.tw/">http://www.singular.com.tw/</a></p> <p>[ 15 ] SD205 Thin Client<br/><a href="http://www.singular.com.tw/sd205.htm">http://www.singular.com.tw/sd205.htm</a></p> <p>[ 16 ] VICQ Planet<br/><a href="http://www.ipmental.com/english/main.htm">http://www.ipmental.com/english/main.htm</a></p> <p>[ 17 ] E-Plus<br/><a href="http://194.245.72.52/">http://194.245.72.52/</a></p> <p>[ 18 ] E-Plus の i-mode 広報用サイト<br/><a href="http://www.eplus-imode.de/">http://www.eplus-imode.de/</a></p> <p>[ 19 ] GSM CARD easyRoam<br/><a href="http://www.swisscom-mobile.ch/asp/04_01_03-en.asp">http://www.swisscom-mobile.ch/asp/04_01_03-en.asp</a></p> <p>[ 20 ] Bluewin<br/><a href="http://freesms.bluewin.ch/index_e.html">http://freesms.bluewin.ch/index_e.html</a></p> |
|--|--|